



1986・4

第 23 号

しろこぼと

白本野鳥の会 埼玉県支部



ホウロクシギ(シギ科) 初めてシギを見に行ったとき、「あれがコアオアシギ」と教えられても、アオアシギとの区別さえつかずに見ていた千葉県一の宮の湿地。ビューイと涼しげなキアシギの声を肴に、堤防で酒盛りをしながら夜を明かした愛知県汐川の干潟。そして昨年10月、1年ぶりに訪ずれた浦和市大久保の田んぼで、内陸部では珍しいホウロクシギに出会った。じっと観察していると、数mの距離まで近寄ってきて、不思議なものでも見るかのように、こちらを見ていた瞳が忘れられない。

(写真と文・園部浩一郎)

春のシギ・チドリに想う

北へ帰る春のシギ・チドリの美しい夏羽は、バードウォッチャーの目を十分楽しませてくれます。しかし、春の渡りはその期間が秋より短く、一日で種類がすっかり変わることもあり、チャンスを逃がさないように注意しましょう。

コチドリによせて

「ちんちん千鳥の啼く夜さは、
啼く夜さは、
硝子戸しめてもまだ寒い、
まだ寒い。」

北原白秋のこの詩は、いつの頃からか私の好きな詩の一つである。川原で啼くチドリの細く澄んだ声、それを聞いていると、フッとこの詩を思い出す。

私と千鳥の出逢いは、本当に偶然の出来事だった。

あの五月の陽光の中、石の様に動かずに身の危険を必死で逃れようとしているコチドリのヒナ、誰れが教えたのか？ 生れて間もな



擬 傷 (写真・海老原美夫)

タカブシギの魅力

私のフィールドは利根川の阪東大橋周辺です。渡りのシーズンともなるとさまざまなシギ・チが中洲で動きまわっているのをプロミナーで覗くのが楽しみです。その中でもタカブシギは私にとって何となく気になる鳥です。別に美しいわけでも華やかなわけでもありません。初めて出会ったのは、やはり利根川の河原です。図鑑をとり出して調べてみました

鈴木暁子(川越市)

い小さな命、この感動的な場面は、私にとって忘れがたく、目をとじると鮮やかに浮んで来るのだ。誰れだってこの様な場面にぶつかれば、忘れられないことだろう。

その日から、もう一度と願いつつ、何回となく川原へ足を運んだが、二度とドラマは起きなかった。唯、親鳥の啼く澄んだ声のみが聞こえるだけだった。

今でも、五月の下旬になると、高麗川で出逢ったコチドリの親子を思い胸が熱くなる。

晴れた日が続くとホッととして、大丈夫だと安心して、心が明るくなる。

雨の日が続くと、どうしてもならない自分の無力に腹をたて、川が増水して巣がどうにかならないか、親鳥は雨の中どうしているのだろうか、心を悩すのである。

川原を走るジープやオートバイに腹をたて農薬の空中散布に怒り、自然を破壊する開発と言う名の営利産業、心ない人々の川へのたれ流しによる汚染等に胸を痛め、人間と動植物が仲良く共存出来る日の来る事を夢見ながら、コチドリに声援を送るのである。

昔から、日本人の心に詩を呼び起させた千鳥達よ、いつまでも元気で強く生きよと。

北川慎一(本庄市)

が、タカブシギなのかクサシギなのか迷った記憶があります。ところで、その名の由来は、羽がタカのような模様をしていることからだと聞きました。タカと名前がつくと、あのどこか抜けていそうな目をしたタカブシギには何となく名前負けしてしまいそうな気もしますが、そこがまたタカブシギの魅力でもあります。

わたしのムナグロ

荒川河川敷の大久保農耕地には毎年春と秋にたくさんのムナグロがやってきます。春、やって来た頃の頃は田圃の片隅で少しだけ見られるだけですが、田植えのまっさかりには田おこしされた田圃のそこらじゅうに美しく着飾った夏羽のムナグロが見られるようになります。私の一番好きな季節に一番好きな鳥がやってきたわけです。

ポカポカ晴れた春の一日、田圃の片隅でのんびりとムナグロを見るのがなんともいっても

最高です。

一度でいいからこのムナグロたちが大空へ飛び立ち、シベリアへと渡り去ってゆくところを見たいと思っているのですが、なかなか実現しません。



ツルシギ 夏姿の君に会いたい

五ヶ国対抗ラグビーの試合をテレビで楽しんでいる時でした。編集部のY氏から電話で「ツルシギについて書いて欲しい」と。う～ん、ツルシギか。すっかり忘れていたな。

初めて見たのはいつだったかしら。あの真赤な細い足が鮮やかで、その立ち姿の美しさにしばし心を奪われた筈だったのに。

ハマシギによせて

西行が「シギたつ沢の秋の夕暮れ」と詠んだように、古来からシギは親しまれてきました。野鳥の会に入会した頃、先輩から「あの腹の黒いのがハマシギですよ」と教えられ、一生懸命プロミナーを覗きました。ハマシギは「腹の黒いのが…」というのが聞こえたらしく、「今に見ていろ」と呟きながら、餌を採るのに夢中でした。そして、秋から冬に移る頃、果たせるかな彼の腹は白っぽくなっていきました。「これで、人間様にも分かってもらえるだろう。よかったよ、よかったよ」と言っているかのようでした。

ハマシギは、イソシギやキアシシギと共に

ひとくちメモ

ムナグロ＝浦和市の大久保農耕地（秋ヶ瀬）で最も良く会える。浦和駅西口、北浦和西口から大久保浄水場行きバスで「八ツ島」下車、徒歩約5分。

コチドリ・タカブシギ・ハマシギ＝県内平野部の水辺、田んぼなど。

ツルシギ＝県内では多くない。渡良瀬遊水池がねらい所。東武日光線柳生駅下車、徒歩約10分。

渡辺朝一（浦和市）

草間和子（浦和市）

その思いがすっかり稀薄になっているのにわれながらビックリ。でも、まあ多くいるシギの中でも好きな鳥であることは間違いない。

夏姿の君に“夏の恋”よろしく、情熱的な出会いをしてみたいものです。その時には、しっかり、そのシーンを目に焼き付けますから。

鈴木忠雄（熊谷市）

最も身近に見られるシギの仲間です。旅鳥ですが一部は越冬し、群れて川面や干潟を飛びかいます。旋回する時、光があたって眩しいくらいに白く見える様は、実に華麗そのものです。レビューガールが、脚を上げたり下げたりするよりももっと揃ってターンをし、しばし見とれてしまいます。誰がサインを送るのか不思議です。

旋回をして

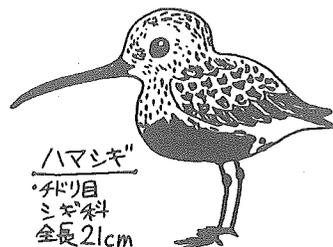
光り合う

シギの群

ハマシギの

行きつもどりつ

餌にせわし



銚子ツアーに参加して

犬吠崎の岩壁に打ち寄せる波は同じようなリズムでしぶきをあげてはひいていく。「日の出はこの方面かな。」とめいめいが期待をして、三脚にカメラをつけて用意万端、まだかまだかと待っている。しかし、やゝ雲のかたまりのあるのが気になる。ある部分の地平線がやゝ明るくなってきたような気がする。残念だがどうもくっきりとした日の出は期待できそうにない。

しかし、そのうす暗い中に、右から左へと次々と群を作っていくのはウミウのようだ。また一群14羽、また20羽と200羽を越した。その群が飛び立つのはあの岩の島からだ。

双眼鏡で見える範囲が広がって来た。あかね色になった空にたなびいている雲の濃淡が太陽の形をじゃましていた。しかし、澄んだ冷たい空気の中に、水面すれすれに飛び去るウミウと水平線の上を悠々と舞うカモメがみごとに調和していた。

犬吠崎の夜明けの海、イソヒヨドリのおさえ

私の鳥見考

本格的に鳥を始めてそろそろ2年になるが、本当によかったと思うのは、今まで見えてなかった、聞こえてなかった世界の営みに触れられるようになったことである。しかし、一方でいつも不安に思うのは、逆に見えなくなってきた世界があるようであることだ。

たとえば雨にたたられた折に、「今日はもう細かいことは気にせず、のんびり風景を楽しんでればいいんだ」と思う時がある。また、一通りその日期待していた鳥を見終えて後、ふとあらためて見渡すと、周囲の眺めのあまりに美しいことに気づいたりする。鳥たちの生活に接することは、僕に生態系の動的営みへの目を開いてくれた。だがその反面そこにあるものの全体としての美しさが見えにくくなっている気がする。

その点で、この道を極めた人達はどのようなであろうか。もしもこうした傾向がますます強くなっていくのなら、いっそ鳥など始めな

町田たか子(寄居町)

ずりをあとにして、銚子港に向った。そこにはカモメの大群がみられた。当地の繁倉先生には8種類のカモメの識別を中心にして、各々の鳥の特徴や最近の鳥の現れ方や成鳥と幼鳥の見分け方等の指導をいただいた。今はいわしの水揚げの時、岩壁には大きな漁船が数えきれない程横付けになっていた。山と積まれた網を修理している人のまわりにも、いわしがいっぱいちらばり、かもめが頭上にとびまわっていた。ある岸壁には何百羽かと思われる鳥がじっと列をなしていてプロミナに入れてゆっくりと観察し、大きさや形や色などを比較することができた。山や里での探鳥会とは比べものにならなかった。

帰路では葦の広がった河川敷でオオジュリンやタゲリを見てバスの旅となった。今日の探鳥ツアーのメンバーは20名。普及部長の石井生高さんより、熱いコーヒー、紅茶、お茶のサービスまであり、いたれりつくせりのすばらしいツアーであった。

鈴木高士(大宮市)

い方がよかったという気にならなくもない。

もっとも僕はそんなに悲観的ではない。素晴らしい経験が時折折れるからだ。冬枯れの林の床でシジュウカラが落ち葉を一枚一枚ひっくり返しながらか、一心に餌を探しているのを一人見ている時、抱きしめたくなるほどの愛おしさとともに、自分が林の生態系の一部となって呼吸しているのを感じることもある。ワシやタカが悠然と上空を舞うのを見上げているうち、彼等に支配されている広大な大地の中の一点に、ぽつんと立っている自分が見えてくることもある。そんな時、世界の全体がはっきりと感じられると同時に、そこに位置づいている自分を強く意識する。

多分、細かいことがあれこれ気になるのは自分がまだ初心のせいで、やがては常にこうした境地でいられるようになるのだろう。そう納得して、今日も小さな鳥影を追っている。

- ミコアイサ ◇1月6日、吉見町大沼で♂2羽(田中智恵子他3名)。
 シロハラ ◇1月16日、鳩山町熊井で♂♀各1羽(海老原美夫)。◇2月2日、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。
 タマシギ ◇1月16日、越谷市西和田で♂♀各1羽(海老原美夫)。
 ミヤマホオジロ ◇1月26日、入間郡鶴ヶ島町高倉で20羽(宮内武昭)。◇2月9日、北本市石戸宿で2羽(場谷内ルミ子)。◇2月11日、秩父市大田で1羽(丸山政弘)。
 オオモズ ◇1月26日、入間郡鶴ヶ島町高倉で1羽(宮内武昭)。
 イカル ◇1月28日、熊谷市大原で1羽(鈴木忠雄)。◇2月11日、浦和市の見沼通船堀で3羽(為貞貞人)。

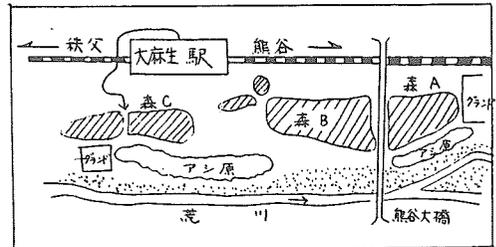
- オシドリ ◇1月下旬から3週間位、越谷市の元荒川で♂1羽(村上有香)。
 ウグイスの初鳴き ◇2月1日午後4時頃、浦和市の秋ヶ瀬にて(福井 亘)。
 ヤマシギ ◇2月2日、大宮市日進町で2羽(森本國夫)。
 イワツバメ ◇2月2日、川越市天沼新田で5羽(鈴木暁子)。
 アカハラ ◇2月5日、越谷市の古利根川沿岸敷前地区の雑木林で1羽(西村雅敏)。
 ヒレンジャク ◇2月8日、秩父市上野台で1羽(西田賢治)。
 イワヒバリ ◇2月9日、小鹿野町の岩殿山で3羽(豊田 隆)。
 カヤクグリ ◇2月14日、秩父市黒谷で1羽(豊田 隆)。
 ベニマシコ ◇2月14日、秩父市の美の山で♂2♀1(今井明巨)。
 ハヤブサ ◇2月16日、桶川市の川田谷で1羽(長野博行)。

消えゆく森・大麻生

おおあそう

(マイフィールドガイド)

今井明巨(熊谷市)



秩父鉄道熊谷駅から秩父へ向かって3番目の大麻生駅が埼玉県を代表する探鳥地の入口です。駅のホームでは、名物カワセミの麻生君の♀を描いた探鳥地案内板が迎えてくれる。

赤松、ブナ、ニセアカシアの森とアシを中心とした草地、そして荒川の清流へと変化にとむ地形であることが、大麻生が多くの種類の野鳥たちを育むことが出来る理由なのでしょう。私は県支部新設以来2年間に120種以上を観察しました。

昼でも、うす暗い森の中では、冬にはアカゲラ、アオゲラが幹から幹へと飛びまわり、シジュウカラ、メジロの大きな群には、ヒガラ、コガラ、キクイタダキ、ミヤマホオジロが見られます。夏には、渡りの途中のオオルリが美しい姿を見せ、コサメビタキやセンダイムシクイが、そしてコジュケイをねらうツミヤサンコウチョウが現われるのです。

草地ではオオヨシキリやセッカ、河原ではカワセミのダイビング、渡りの季節にはアオ

アシギが上品なダンスを見せてくれます。

豊かな自然と数多くの野鳥たちの生息する大麻生にも大きな変化がおとずれています。18ホールのゴルフ場を中心とした北部総合運動公園の工事が開始され、野鳥の森のうち図の森Cが消えることとなりました。大切な森が失われるのは残念ですが、残された時間、消える森の調査を続けたいと考えています。

計画では、森A、森Bは新たに公園内の野鳥の森として残され、管理されることになりました。森Cが50%以上落葉樹で占められているのに比べて、森A、Bは針葉樹が70%以上を占めているのが心配なのですが……。



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意ください。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以下＝50円

4月6日(日) 浦和市 秋ヶ瀬公園

午前9時浦和駅西口バスロータリー集合。
午後1時ごろ解散。ポカポカあったかい公園内の林を歩いて、ゆっくり探鳥会。アオジのさえずりが聞こえますか。あこがれのヒレンジャクやキレンジャクにも会いたいけど……会えるでしょうか。(担当＝海老原美夫、福井恒人)

庄8:48着)午後2時ごろ解散。シギ、チドリのカウントをしながら、コチドリ、キアツギ、キョウジョシギなどを探しましょう。(担当＝石井生高、田村照治、萩原正二)

5月3日(土) 渡良瀬遊水池

午前9時東武日光線柳生駅前集合。午後2時ごろ解散。コヨシキリ、サンバ。

4月13日(日) 熊谷市 大麻生 (定例)

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅前集合(秩父鉄道熊谷9:09発→大麻生9:18着/秩父鉄道寄居9:12発→大麻生9:32着)。川面をツバメがスイ、スイ、飛び交います。林の木々も芽ぶき始めます。(担当＝鈴木忠雄、堀越照雄、今井明巨)

5月4日(日) 浦和市 秋ヶ瀬

午前9時国鉄浦和駅西口バスロータリー集合。午後1時ごろ解散。ムナグロ。

5月5日(月・祝) 寄居町 鐘撞堂山

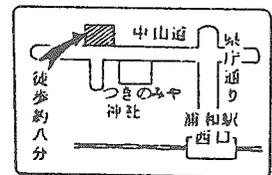
午前9時寄居駅北口集合。午後2時ごろ解散。キビタキ、オオルリが出て欲しい。

4月20日(日) 浦和市 三室地区(浦和市立郷土博物館共催、定例)参加費無料。

午前8時15分北浦和駅東口又は、午前9時郷土博物館前に集合。午後1時ごろ解散。コムドリを始め、どんな夏鳥が見られるでしょうか。(担当＝楠見邦博、森本國夫、福井恒人)

4月12日(土) 野鳥写真教室

午後3時～6時、浦和市立コミュニティセンター2階第2講座室。本誌昨年9月号表紙キジの写真の中村重勝さんの「中村流写真術」と会員の作品発表。(担当＝海老原美夫)



4月29日(祝) 本庄市 阪東大橋南詰

午前9時高崎線本庄駅北口集合(高崎線浦和7:37発→大宮7:43→熊谷8:27→本

台湾的鳥類アラカルト(I)

昨年暮れ、台湾の方から『台湾の水鳥』と『台湾的陸鳥』という本をいただきました。各科それぞれに見出しがついていて、それがちょっとおもしろいので御紹介します。なお、()内は私の訳文です。

榎本秀和(鴻巣市)

1. 浮沈自如の鳥中潛艇(浮沈自在、鳥のサブマリン)＝アビ科
2. 技芸超群的潜水伏(群をぬくもぐりの名人)＝カイツブリ科
3. 矯健の空中艦艇(空飛ぶ巡洋艦)＝グンカンドリ科



1月11日(土) 行徳野鳥観察舎

人 11人 天気 晴 鳥 カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハンビロガモ キンクロハジロ スズガモ トビ ノスリ チュウヒバン シロチドリ ハマシギ セイタカシギ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ウミネコ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン スズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス、ハシブトガラス(42種)ノスリやチュウヒ、セイタカシギ、カワセミのダイビングも。皆感激。

2月9日(日) 熊谷市 大麻生

人 27人 天気 晴 鳥 カイツブリ ゴイサギ コサギ カルガモ キジ イカルチドリ イソシギ タシギ キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス コガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハンボソガラス ハシブトガラス(34種)カワセミは少々遠かったが、ちゃんと現われ、相変わずの皆勤ぶり。

2月16日(日) 浦和市 三空地区

人 37人 天気 晴 鳥 コサギ コガモ オナガガモ イカルチドリ タゲリ ハマシギ タカブシギ イソシギ タシギ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス キクイタダキ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス ハシブトガラス(31種)キクイタダキは雄の赤い羽毛まで見えるくらいだった。

2月23日(日) 所沢市 狭山湖

人 26人 天気 晴 鳥 カイツブリ カンムリカイツブリ アオサギ オンドリ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ オオタカ ノスリ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハンボソガラス ハシブトガラス(35種)望遠鏡の視野内にノスリとオオタカが見え、皆大喜び。

2月23日(日) 蓮田市 黒浜沼周辺

人 50人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ カルガモ コガモ バン イカルチドリ タシギ シラコバト キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハンボソガラス ハシブトガラス(35種)ミヤマホオジロが印象的。ホオジロも囀り始めていた。

2月24日(月) 大井野鳥公園

人 8人 天気 曇時々晴 鳥 カイツブリ ミミカイツブリ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシブトガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ トビ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ クイナ バン オオバン シロチドリ ハマシギ クサシギ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ウミネコ キジバト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシブトガラス(50種)ここの定例探鳥会も、佐々木レンジャーが福島市小鳥の森に転勤ということで最後に。2年間の御指導に対して心から感謝いたします。

3月2日(日) 寄居町 鉢形城跡と荒川

人 25人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ コハクチョウ オンドリ オナガガモ トビ コジュケイ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ トラツグミ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハンボソガラス ハシブトガラス(36種)コハクチョウは幼鳥1羽で寂しそう。オンドリは15羽位の群れで華やか。天気は上々。

3月2日(日) 軽井沢町 野鳥の森

人 38人 天気 晴 鳥 カルガモ オナガガモ トビ ハイタカ ノスリ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ キレンジャク ヒレンジャク カワガラス ミソサザイ イワヒバリ ジョウビタキ トラツグミ ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ ハギマシコ ベニマシコ イカル シメ スズメ カケス オナガ ハンボソガラス ハシブトガラス(38種)本部の藤本さんのご尽力で、ホテルのロビーから楽しめたミソサザイや数10羽のハギマシコなど、印象深い一日。



5月はSAVE THE BIRDS 探鳥会

SAVE THE BIRDS <この鳥を救おう> キャンペーンは、世界鳥類保護会議 (ICBP) の活動方針と呼応した計画です。日本のみならず、アジア各国とも手を結び、絶滅に瀕した野鳥とその生息地の保護を目的に、具体的な保護対策と基金づくりを行います。キャンペーンを通して得られた募金は、まず最初の目標として、北海道鶴居村に、ツルのためのサンクチュアリを設置することに使われます。ツルは、SAVE THE BIRDS の牽引車です。鶴居村サンクチュアリの設置には、1億150万円が必要です。日本野鳥の会では、バードウィーク中の5月11日に全国一斉SAVE THE BIRDS 探鳥会を開いて募金集めをする予定です。そこで埼玉県支部では、バードウィークを実のあるものとするためにも、5月11日のみならず、5月中の探鳥会すべてをSAVE THE BIRDS 探鳥会として位置づけたいと考えています。通常の参加費のほかに1口300円の募金をしてくださった方には、絵はがき(又はシール)などをお礼します。1人でも多くの方のご賛同をお願いします。ツルのためのサンクチュアリを、ぜひ実現させようではありませんか。

新会員制度承認

2月22・23日、本部の理事会・評議員会・支部代表者会議が開かれ、県支部からは海老原美夫評議員と西城戸司オブザーバーの両名が出席、席上、新会員制度が承認されて、具体的に動き出す事となりました。くわしくはまたお知らせします。

ご寄付ありがとう

次の方々からご寄付いただきました。
五十嵐千恵 1,120 円、五十嵐輝雄 1,000 円、今井昌彦 10,000 円、加藤均 3,000 円、杉山彰 5,000 円、鈴木忠雄 10,000 円、高橋君子 1,000 円、田中智恵子 1,000 円、水村実 2,000 円、吉田富美江 1,000 円。※50音順、敬称略。

会員数は

3月20日現在 689 人です。

役員会の報告

2月9日(熊谷市) ①事務局と各部の報告、②バードウィーク行事、③5月行事、④その他。次回は3月9日、熊谷市で。

事務局日誌

- 2月10日 本部にて事業部商品仕入れと支部ワッペンについて相談。(草間、西城戸)
- 2月23日 狭山市立緑の相談所で開催中の野鳥写真パネル展へ。(海老原、福井)
- 2月24日 東京港野鳥公園の佐々木勉レンジャー来局。
- 3月1日 『しらこぼと』3月号袋詰め作業。(ボランティア5名)3日発送。



この冬は、平地でメジロやキクイタダキがとても多く見られ、大宮市内の自宅近くで初めてキクイタダキを見たときには、なんだか得をしたような気分になったものでした。

季節は移って、すっかり春。ウグイスもさえずり、ツバメが見られるようになり、シギやチドリ類の訪れも楽しみです。(森本國夫)

題字『しらこぼと』：日本野鳥の会会長・山下静一

(イラスト風見出し・鷹尾正済)

『しらこぼと』

1986年4月号(第23号)
発行人 今井昌彦

頒価 100円(会費に含まれます)
発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990
印刷所 望月印刷株式会社

(無断転載を禁じます)